

六

なら七口

奈良町
にぎわいの家から
円照寺バス停まで
約4km

紀寺口から先は古地図でみると二方面あるようです。一つは、自然豊かな田原地区を通って三重県の名張を目指す道A。歴史的にも大変古く平城京以前にさかのぼる地域です。もう一つは奈良盆地の東の端をたどって南下し五ヶ谷に抜け、福住、やがて針へ(さらに名張へ)向かう道B。どちらも奈良町に農作物や薪などの物資を運び、奈良町の生活を支えていました。今回は比較的平坦なBの道を御霊信仰をたどって歩きます。

行程の目安 近鉄奈良駅

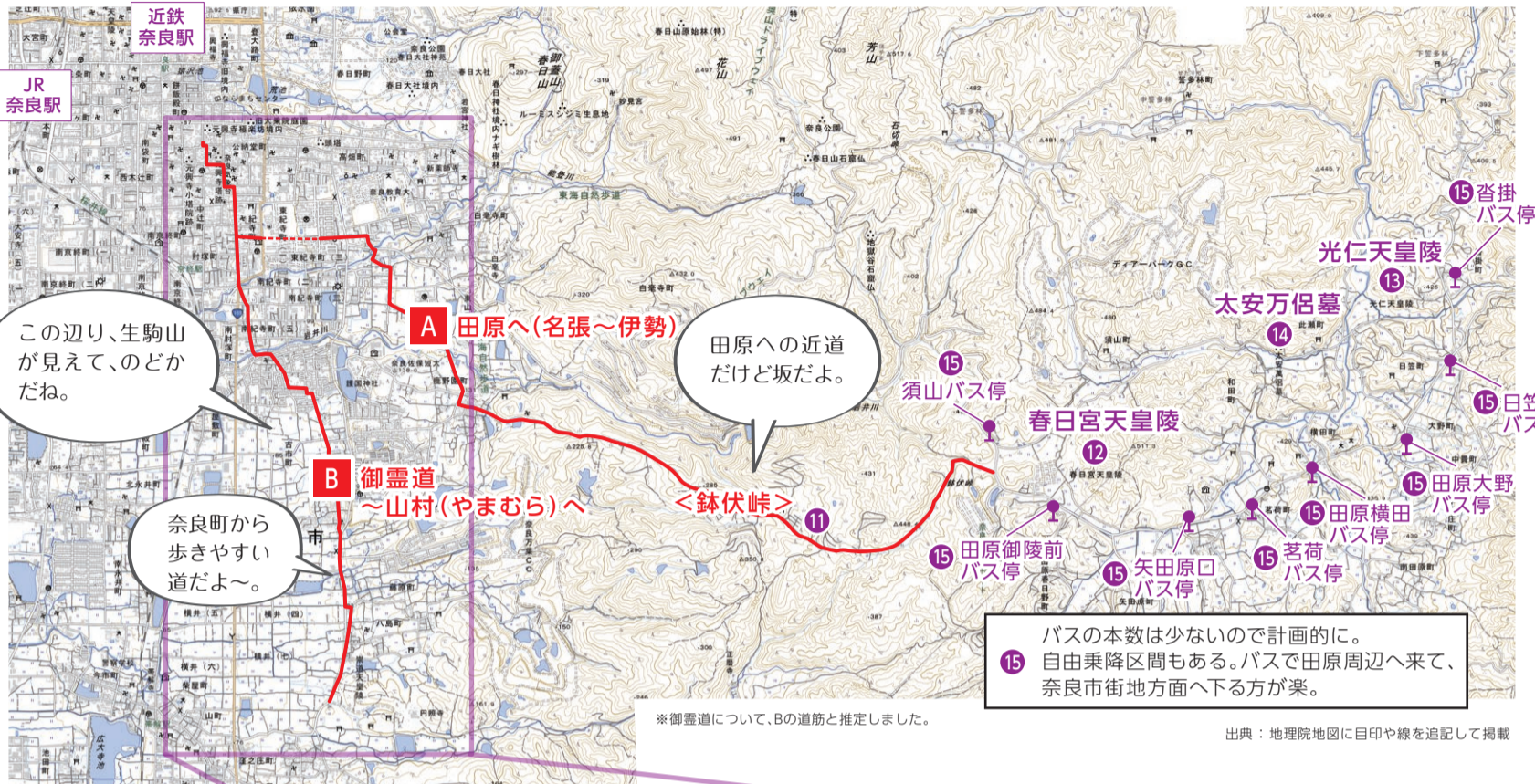
(おおよその直線距離で測定)

起点

- | | | |
|---|----------------|-------|
| A | ●田原まで…………… | 約8km |
| | ●山添村役場まで…………… | 約21km |
| | ●名張まで…………… | 約33km |
| B | ●円照寺バス停まで…………… | 約5km |
| | ●福住まで…………… | 約12km |
| | ●針まで…………… | 約16km |

御霊道を通って崇道天皇陵へ

紀寺口から東山中へ



この辺り、生駒山が見えて、のどかだね。

田原への近道だけど坂だよ。

奈良町から歩きやすい道だよ。

バスの本数は少ないので計画的に。自由乗降区間もある。バスで田原周辺へ来て、奈良市街地方面へ下る方が楽。

※御霊道について、Bの道筋と推定しました。

出典：地理院地図に目印や線を追記して掲載

- ②御霊神社(ごりょうじんじや)
氏子地域七十余町を守護する氏神で「ごりょうさん」と親しまれている。桓武天皇の命で延暦十九年(800年)に創建され、聖武天皇の皇女である井上皇后(いがみこうごう)、御子・他戸親王(おさべしんのう)、三筆の橘逸勢らを祀る。縁結びの神様と美しい御朱印でも知られる。
- ③井上神社(いがみじんじや)
前項の御霊神社はかつて井上郷にあった。宝徳三年(1451年)の元興寺火災後、遷座された。隣は井上町会所。江戸から明治まで町民や町の様子を記録した貴重な年代記が残る。
- ④狂言大蔵流屋敷跡
代々奈良の行事に奉仕していた狂言大蔵流。この地を豊臣秀吉より拝領した。
- ⑥正覚寺
俊寛が流罪先の鬼界ヶ島から逃れて隠れ住んだとの伝説。この付近あるいは高畑に鬼界ヶ島という地名があったという。
- ⑦崇道天皇社(すどうてんのうしや)
大同元年(806年)平城天皇の勅命により、桓武天皇の皇太弟である早良親王(崇道天皇)を祀る。その鎮魂のため諸国の国分寺で春秋の七日間、経をよんだのがお彼岸の発祥と伝える。1623年に春日若宮社を移建した本殿は国の重要文化財。参道の灯籠のデザインが面白い。
- ⑧璉城寺(れんじょうじ)
別名を紀寺といい、前身は飛鳥にあったという。聖武天皇の勅願で行基により開基され、平安時代に紀有常が改めて伽藍を建立したと伝わる。「はだか阿弥陀像」で知られる裸形の像は鎌倉後期。脇侍の木造観音菩薩立像らは重要文化財。
- ⑨道標
すぐ(真っ直ぐ)古市道・山村道
/左 名張越え伊勢道
- ⑩道が消えた!
明治期後半、付近一帯は造成され歩兵第三十八聯隊、奈良陸軍病院、奈良陸軍練兵場などが置かれた。現在の市立奈良病院が建て替わるまでは敷地内を通り道が残っていたようだ。
- ⑪鉢伏峠
奈良市街地からは急な登りだが田原まで近道。途中、とくぼさん(東金坊地蔵)や宅布世神社など。お水取りの「松明調進」の道。さみしいので気を付けて。



藤堂藩の領地だったのね。名張への道が近いのも納得

山村御殿って素敵な響き。でも拝観不可だから静かにね。

出典：地理院地図に目印や線を追記して掲載

①北浦定政墓所

平城京保存の先駆者。『平城宮大内裏跡坪割之図』を1852年(嘉永5年)作成し平城宮の跡地を推定した。光仁天皇陵などの陵長も務めた。藤堂津藩の御用を務める家に生まれた。

②御前原石立命神社

御前原石立命、御霊神社・崇道天皇(早良親王)らを祀る



③崇道天皇陵(八嶋陵)

長岡京造営司を暗殺した罪で淡路島に配流される途中、無実を訴え憤死した早良親王が眠る。立太子(次期天皇)していたため延暦19年(800年)に崇道天皇と追称された。



④八つ石

陵前に巨石がある。言い伝えでは早良親王が淡路国での死に際し、石を9つ投げ、落ちたところに葬って欲しいと告げた。そのうち8つがこの地で見つかり陵が造営された。八島の地名の由来ともなったとも。実際は横穴式石室の天井石が露出した古墳。



⑤林の中の道

池の前を通って山村御殿(円照寺)へ抜ける道がある。人通りが少ないので気を付けて。急な細い土道を降りると寺の参道



⑥山村御殿(円照寺) <拝観不可>

大和三門跡の一つ。後水尾天皇の皇女・文智女王が出家し、寛永18年(1641年)京都に草庵を結んだのが始まり。中宮東福門院(徳川秀忠の娘)の助力により、やがて寛文9年(1669年)現在地に移転した。華道「山村御流」の家元。

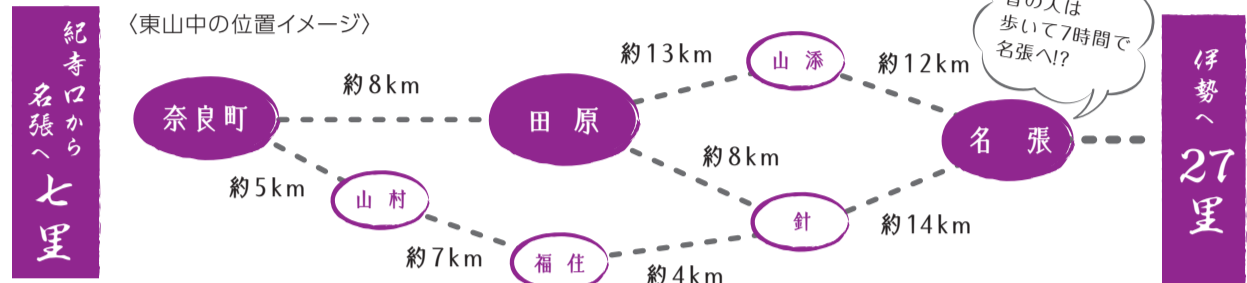
⑦五つ塚古墳

横穴式石室が5つ連なる。6世紀後半の築造。昭和前期には周囲の手入れがされ形が分かりやすかったという。



⑧正暦寺

正暦3年(992年)、一条天皇の発願により創建。山号の菩提山は、奈良の東山一帯を釈迦修行の聖地に見立て、鹿野園・誓多林・大慈山・忍辱山・菩提山と名付けた五大山の一つに由来する。秋は紅葉が有名で、夏には川沿いに螢も見られる。



七口メモ

①紀寺口の地名の由来

紀氏(きうじ)の寺があったという。古代豪族の紀伊国造家で紀貫之もその一人とか。奈良時代に飛鳥から移転したと考えられる。璉城寺は紀寺の後身とされる。

②実り豊かな田原地区

「田原」という名は「俵」、たくさん収穫ができる大地の美称。奈良町の生活を支えた農村地帯である。標高は400～500mと高く冷涼。大和茶の産地でもあり、日本のふるさとと言うべき山里風景が広がる。8月に行われる「祭文音頭」は、県の無形民俗文化財。



③田原は古代から都と交流が深い

田原地区は、平城京最後の天皇である光仁天皇陵、その父親で万葉集に歌を残す志貴皇子(しきのみこ、天智天皇の皇子)の春日宮天皇陵が築かれるなど、古代の人々にとって馴染みのある地域と考えられる。昭和54年には茶畑開墾中に太安万侶(おおのやすまろ、古事記の編者)の墓も見つかった。



④東山中が奈良町の生活を支えた!

江戸時代は東山中特産の凍豆腐や茶、明治大正には生糸や薪、木材などが奈良町に運ばれた。大正10～昭和27年、今のJR京終駅からロープウェイ(奈良安全索道)が掛かっていた。京終～田原～針～小倉(針東)。

⑤御霊道ってどこ!?

紀寺口から出た道に「ふるいちみち」「ごりょうみち」と書かれている古地図がある。史料では「五ヶ谷及び奈良地方ヨリ崇道天皇御陵へ」とある。そこで、このマップでは奈良町側からは御霊神社、崇道天皇社、崇道天皇陵近くを通る道と考えた。なお、御霊信仰とは、不遇の死を遂げた人々の怨霊を丁重に祀ると、やがて御霊となり神となるという考え。

⑥御霊神社と崇道天皇社

光仁天皇の皇太子だった他戸親王(母・井上皇后)は廃され、山部王が桓武天皇に。桓武天皇の皇太弟・早良親王は不遇の死をとげ……。井上皇后と他戸親王は御霊神社に、早良親王は崇道天皇社に祀られた。

不遇の死を遂げた人々を丁重に祀ると神様になって、平穏をもたらしてくれるのね。

⑦町を護る!南三口を護る!

奈良の町には南の出入口として三つの街道があり、疫病の侵入を防ぐための御霊会が営まれた。上つ道に早良親王を祀る崇道天皇社、中つ道に井上皇后を祀る井上御霊社、下つ道に他戸親王を祀る他戸御霊社が造営された。

⑧山村御殿は、どうして御殿っていうの?

地元では円照寺より山村御殿(やまむらごてん)の名で知られる。天皇家の皇女が歴代の門跡となったため御殿と呼ばれた。三島由紀夫の『豊饒の海』に登場する「月修寺」とされ、帯解駅付近では三島の姿が見られたという。

⑨正暦寺は、お酒の発祥地!

日本清酒発祥の地として有名!境内を流れる菩提仙川の清流の清水を用いて、菩提泉という銘柄の清酒が日本で初めて醸造されたという。現在は毎年1月に酒母の仕込みを行い、県内の蔵元がその酒母で清酒を醸造している。

古市氏と藤堂藩のはなし

⑩乱世を生き抜いた古市氏と古市城

現在の古市小学校あたりに大和国衆、古市氏の城があった。氏は興福寺の衆徒で1320年代より史料に名を遺す。有名なのが、戦国時代の古市澄胤と胤栄。茶の湯、謡・尺八に優れた文化人大名として知られた。松永氏についたがその滅亡とともに、一勢力を誇った古市氏も終焉をむかえた。

⑪淋汗茶湯(りんかんちやのゆ)

古市澄栄らは、しばしば淋汗茶湯を開催。淋汗とは夏風呂のことで、風呂と茶の湯があわさった茶会で、客は百人以上にも及ぶこともあった賑やかなものだったという。また当時流行の風流踊の場も設けたという。

⑫村田珠光の一の弟子

古市澄胤は侘茶の創始者・村田珠光の弟子で、子孫も加賀前田藩や豊前小倉藩、肥後熊本藩ら各地で茶道頭を務めた。

⑬藤堂津藩領・古市陣屋

大和各地に領地を持つ藤堂津藩の陣屋が古市に置かれた。幕末の鳥羽伏見の戦いでは幕府軍として布陣したが一転、倒幕について維新後は勝ち組となったという。石高は32万石。陣屋の門は帯解の龍象寺の門として移築された。



風流踊りで木戸銭とるってことは、日本初のダンスホール!?

歩行記録

令和 年 月 日 () : ~ :

同行者

休憩場所

掛かった費用 交通費 円